まえがき

私は40年間俳句を作って来ました。その間に多くの俳句に接しました。日本の国土と俳句という文学はよく調和し数々の秀句を生み出しました。

「日本語は天才」という言葉聞いたことはございませんか。縦書きも横書きもｏｋ。漢字ひらがなカタカナ、そしてアルファベットまで組み込んで文が作れる。フリガナも付けられる。味わい深い方言もある。そういう言語文化に、二千万年前に大陸から分離した日本列島。災害は多いが自然は豊かで動植物の種類も豊富。季節の変化にも富む。この自然と言語から日本の詩歌文化が千数百年前から生まれた。俳句が生まれたのは16世紀の終り頃。和歌や連歌から独立し平和になった庶民が参加。そしてそれから約四百年。明治の中期に中興の祖正岡子規が出た。俳句は「古池や」と「柿食えば」だという事はないでしょうね。俳句はある学者の計算では10の16乗あるそうです。もとより筆者の眼に触れた俳句はほんの一部です。現在の俳句は自然だけを対象にしているのではなく人生や生活全般を詠んでいます。

俳句の愉しさを知ってもらうために、この本はその中から多数の俳句本を参考にしつつ、芭蕉から現在までの佳句秀句又は筆者の関心のある句を独断と偏見で選んだものです。無季俳句も対象にしました。是非これを機会に俳句と親しみましょう。海外でも短詩形の俳句は人気があります。今世紀には世界で誰かが俳句でノーベル賞を貰うと思いますが、それが日本人であることを切に祈

ります。なお文中、松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶・正岡子規・夏目漱石・高浜虚子・種田山頭火金子兜太はその姓を省略しました。また長年在籍の奈良県の幻俳句会の先輩故人同僚後輩の句は広く猟渉しました。

原句には旧かなづかい新かなづかいとありますが原句のママとしました。

煩雑になりますが句の難読の言葉にはフリガナを振りました。鑑賞文のうち引用文にはその文の作者と引用文献名を記入しています。

無記入は筆者の文です。この本で読者の俳句への興味が少しでも増せば著者の望外の喜びです。

令和2年7月　コロナ騒動の頃